

心理学的な支援と応用演習(司法・犯罪心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	半澤 利一	

■授業のテーマ

司法・犯罪心理学の知見と臨床心理学の方法による人間理解と支援

■授業の目的

犯罪や非行に限らず、問題行動全般に関連する要因を見極め、問題の改善に向けた具体的な支援法を考える。

■授業の到達目標

- ①犯罪や非行について行動化を伴った社会的不適応として捉え、形成要因を分析して対応や処遇の方策を具体的に提案できる。
- ②家庭内紛争の種類や発生の機序や構造を説明し、解決のための見立てを説明することができる。
- ③問題の種別や性質によって面接法を使い分け、問題改善のために実践することができる。

■授業の概要

公認心理師養成課程において、かつて「犯罪（非行）心理学」と呼ばれていたこの分野が「司法・犯罪心理学」という名称に変更されました。犯罪（非行）心理学は、心理学的な知見と方法を事件の捜査や犯罪者・非行少年の理解や矯正教育などに活かす目的で発展した学問領域でした。さらに、乳幼児や児童に対する虐待への対処あるいは離婚や親権の問題など、人間の心理的な問題の発生や修復に大きく影響する家庭内紛争への介入も含め、法制度も適用して解決を図る領域に拡大して「司法・犯罪心理学」という名称になっています。

一方、臨床心理学の3つのプロセスは「アセスメント（査定）」「マネジメント（理解と計画）」「トリートメント（処遇）」であると言われますが、査定や処遇の基本となる技法は面接です。面接を通じて対象者についてのさまざまな情報を得て、理論を適用して情報を整理し、問題の解決を見立てて処遇しますが、心理・社会的な働きかけの多くも面接を通じてなされます。また、問題形成の大きな要因の一つに家族がありますが、面接を通して家族を理解するだけでなく、対象者の問題解決に寄与するためには家族にどう働きかけたら良いかも考えて行きます。

■スクーリング事前課題（学修時間の目安：10～12時間）

まずは必読図書『家裁調査官が見た現代の非行と家族：司法臨床の現場から』にひととおり目を通してください。家庭裁判所で審理されるさまざまな少年事件（非行）や家事事件（家庭内紛争の解決に向けた調停や審判）が紹介されていますが、ほとんど全てのモデル事例に家庭の事情についての記述があります。自分の経験やこれまで見聞きした家族の問題に類する、あるいは関心を持った家庭内の不調和について問題意識を明確にし、自分なりの理解やその解決に向けた介入を考えておいてください。スクーリング開始時に一人10分程度、発表してもらうことから始めます。ハンドアウトかプレゼン資料を準備してください。

■スクーリング授業計画（状況に応じて会場ではなくリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	参加者の問題意識を明確にする（事前課題の発表）	オンデマンド
2	司法臨床の仕事（少年事件）	オンデマンド
3	司法臨床の仕事（家事事件）	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
4	面接法の基本と調査的面接	オンデマンド
5	臨床心理学の方法論に学ぶ	対面(会場)
6	対象者や家族の発達に沿った支援を考える① (アタッチメントと青年期臨床)	対面(会場)
7	対象者や家族の発達に沿った支援を考える② (アタッチメントと家族システム)	対面(会場)
8	家族の理解と支援の方法① (非行少年の理解と対応)	対面(会場)
9	家族の理解と支援の方法② (女子非行の理解と対応)	対面(会場)
10	心理・社会的支援の方法① (施設内処遇の仕組みと効果)	対面(会場)
11	心理・社会的支援の方法② (社会内処遇の仕組みと効果)	対面(会場)
12	演習を通じたまとめを行う	対面(会場)

※受講生の問題意識や興味・関心、要望などから、講義内容を入れ替えたり、変更することがあります。

■レポート課題

スクーリング 事後課題	スクーリング時に提示するモデルケースについて、面接の留意点と、問題の改善に向けた家族支援についての考えを具体的な処遇計画としてまとめる。
----------------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

演習中に学んだ家族面接のポイントを思い起こし、ケースをできるだけ現実的にイメージすることが基本となります。その対象者に対し、何を知りたくてどのように尋ね、その応答から何を見立てるか、それを思い描き、考えとしてまとめてください。ただ思い込みにならないよう、序盤では、ケースイメージは収束的思考ではなく、拡散的思考(ああも考えられる、こうも考えられる)によるべきことに留意してください。解決についてたくさんの可能性を想定し、それぞれについての介入策を記載する形にしてください。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度50%、プレゼンテーション20%、事後課題レポート30%

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 廣井亮一 2015 『家裁調査官が見た現代の非行と家族：司法臨床の現場から』 創元社
- *2) 生島浩著 2016 『非行臨床における家族支援』 遠見書房
- *3) 中釜洋子、布柴靖枝他著 2019 『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助(第2版)』 有斐閣ブックス
- 4) 生島浩、村松励編著 2007 『犯罪心理臨床』 金剛出版
- 5) 大淵憲一著 2015 『紛争と葛藤の心理学—人はなぜ争い、どう和解するのか』 サイエンス社
- 6) 日本家族研究・家族療法学会編集 2013 『家族療法テキストブック』 金剛出版